



# ひなどり

園だより 6月号  
平成30年5月31日  
新潟市立新津第三幼稚園

## 子どもの話を黙って聞く大切さ

園長 間嶋 哲

保育室に顔を出すと、様々な子どもが話しかけてくれます。例えば年少組ですと、正直こちらが十分理解できないこともあるのですが、にこにこしながら黙って子どもの顔を見ていると、何となく伝わってくるから不思議です。

少し昔になりますが、平成のはじめ頃、『アメリカインディアンの教え（加藤諦三著）』という本が出版されました。「子どもたちはこうして生き方を学びます」として、11の教えが綴られていました。その11の教えとともに、その本で紹介されていたウェイトリー（アメリカの能力開発研究家）の詩が、今でも私の心に残っています。少し紹介します。

子どもの話に耳を傾けよう。

きょう、少し あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

さもないと、いつか子どもはあなたの話を聞こうとしなくなる。

子どもの悩みや要求を聞いてあげよう。

どんなに些細な勝利の話も、どんなにささやかな行いもほめてあげよう。

おしゃべりを我慢して聞き、一緒に大笑いしてあげよう。

子どもに何があったのか、何を求めているかを見つけてあげよう。

そして言ってあげよう、愛していると。毎晩毎晩。

叱ったあとは必ず抱きしめてやり、「大丈夫だ」と言ってやろう。

子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、そうやってほしくないような人間になってしまう。だが、同じ家族の一員なのが誇らしいと言ってやれば、子どもは自分を成功者だと思って育つ。

きょう、少し あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう。あなたがどんなに忙しくても。

そうすれば、子どももあなたの話を聞きに戻ってくるだろう。

「きょう」という言葉が繰り返されているのは、どうしてでしょうか。ずっと考えているのですが、おそらく2013年の流行語ともなった林修氏の「今でしょ」と同じように、「今すぐにでも始めよう」という意味に聞こえてきます。

さて、皆さんのご家庭ではいかがでしょうか。まずは、黙って子どもの眼を見ましよう。

